

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290900412		
法人名	アークエム株式会社		
事業所名	グループホームゆう希苑かなすぎ		
所在地	千葉県船橋市金杉町882-3		
自己評価作成日	平成25年12月12日	評価結果市町村受理日	平成26年2月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会
所在地	東京都世田谷区弦巻5-1-33-602
訪問調査日	平成26年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当苑の理念に基づいて、ご入居者様が安心かつ安全に生活できる環境のなかで、日々笑顔のある穏やかな生活を送る事ができるよう支援していきたいと思っております。開設二年目に入りまして、地域の方々との交流や、行事・活動などにも積極的に参加しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

船橋市郊外の街道沿いの広い敷地に建てられた、周囲でも目立つフランス風の専用建物で、その住人であることが入居者にも家族にも、そしてそこで働く職員にとっても誇らしくなるようなホームです。設立後2年を経過し運営も軌道に乗り、職員にもゆとりが出て来て皆が明るく、朝ゆっくりと寝ていたい人には朝食が10時頃までかかっても良いように自室で食べられるようにするなど、利用者本位のケアを実践しています。今回実施した家族アンケートでも、回答者全員が大変訪れやすいホームであると回答しており、また、殆どの人が家族や入居者本人のその時々々の状況や要望に合わせて柔軟に良く対応してくれると評価しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な環境の中で安心と尊厳のある生活。個人の能力に応じた自立した生活を送ることができるよう支援する。地域コミュニティの中でその人らしい生活ができるよう支援する。毎日ミーティングで唱和し、共有し実践しています。	地域密着型サービスの意義を踏まえた3カ条からなる理念を、玄関等ホーム内に掲示し、全職員で共有し実践に繋げるため、毎日の申し送りのミーティング時に唱和しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会に加入し、町会の行事、夏祭りや防災訓練、清掃活動に参加しています。地域等の情報を共有しています。	町会の行事である防災訓練や清掃活動に2～3人の利用者也参加しています。歌や演芸、手品等の地域のボランティアがホームに来たり、町会会館を借りてボランティアによる民謡を楽しむこともあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に、苑に訪問していただき、ご入居者様との交流をもち、理解していただくよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、おおよそ2か月に1回開催しています。ご家族様や、ご入居様、地域の方のご意見を参考に今後の支援に結び付けたいと思っております。	会議には、外部から家族の他に地域包括支援センター職員、町会長、民生委員の参加があり、現況報告の他に防災訓練や地域活動、認知症ケア等について意見交換し、出席者それぞれから得意分野についてのアドバイスを受けています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加頂き、情報交換や意見交換をしています。また、何かあった場合、積極的に、ご意見を確認するよう努めています。	市町村担当者に代わり地域包括支援センター長・職員が運営推進会議に出席し、ホームの実情を良く理解してくれています。会議の回を重ねるにつれ親密な関係が築かれつつあります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご家族様の了承を得て、安全上玄関の施錠はしていますが、身体拘束のないケアの方針を掲げ、マニュアルを作成し、職員間で意見交換し、実践に努めている。社内外の研修参加もできるよう配慮している。	安全上玄関は日中も施錠し、2階から階段・エレベーター前への出口も一応施錠はしていますが、解錠は可能です。職員は具体的にどうすることが身体拘束になるのかについての認識が薄いように見受けられます。	具体的にどうすることが身体拘束になるのか明確な認識がなければ、完全排除は困難です。正しい知識を持つために、身体拘束・虐待・プライバシー等についての内部勉強会を繰り返すことが望まれます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の社内外の研修参加に配慮し、虐待防止の方針を掲げ、マニュアルを作成し、職員間で、意見交換し、態度や言葉づかい等においても、注意を払い、防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見制度についての研修に参加できるよう配慮し、理解と活用できるよう努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ご利用者様やご家族様に十分な説明をし、質問や疑問にはご理解いただけるようお話をしています。また、契約前には、必ず施設を見学して頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に投書箱を、設置しています。現在年1回家族会を開き、またご家族様の面会等でご来苑時、意見、要望をお聞きし、職員会議等で話し合いを行っています。	利用者については運営推進会議の他は日頃のケアの中で、家族については年1回の家族会の他に面会の為の来訪時に、意見等を聞くように努めています。出てくる要望等は職員会議やカンファレンスの時に活かせるようにしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や、毎日の申し送りで、意見・提案等を話し合い、職員全員が共有できるよう努めています。	職員会議は2カ月に1度ぐらいしか開けませんが、実効性のあるものとするため、1ヶ月ほど前から全職員にアンケートに対する回答の形で意見を出すよう促しています。思い付きではない真に役立つ提案を奨励しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じて、面接や話し合いの機会を随時設けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や外部研修に参加を促し、職員会議等で研修報告を行い、職員全員が共有し、スキルアップできるよう指導をおこなっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他同業者との交流までには至っておりません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の生活歴や性格等を把握し、その方に合う話し方や接し方に心掛け、会話や表情からご本人ができるような声掛けや対応に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会等で来られた時には、こちらから必ず、声をかけさせて頂き、ご利用者の説明や状態の変化を気軽に聞けるよう心掛けています。来苑はいつでも来て頂けるよう話しております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様からの情報やご家族様からの情報を基に、どのようなケアをすればよいか、何が必要かを話し合いながら対応するよう努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者様の立場に立ち、出来る方には、掃除や食器洗いや片づけ、洗濯干しや片づけ庭の草取り等、職員と一緒にいきます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との外出や外泊に行かれる方もおります。必要に応じてご家族様への連絡をとっております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や知人、友人とのご面会や、外出等、気軽に、面会等いつでもできます。また、談話の中に思い出話や懐かしい写真を拝見するなど生活歴を取り入れるようつとめております。	今回実施した家族アンケートでは回答者全員が訪問しやすいと回答しています。遠方の家族も多いなか、家族と一緒に馴染みの床屋に行ったり、外食に出かける利用者もいます。また自宅に外泊するケースもあり、今までの関係が継続できるよう支援を行っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや共同作業(作品作り)において関わりや協力などができるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された時には、お見舞いに伺い、ご家族様や病院との連絡に対応いたします。退去された時は、電話等で相談があれば対応しております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様、ご家族様の情報を基に、ご意向に沿ったケアができるよう努めております。困難な場合には、随時カンファレンス等でどのようにケアをしていくか話し合いをします。	利用者の情報は契約時に本人・家族からアセスメントを取り、個々の生活状況や、思いや意向を把握しています。入居後は日常の様子や顔の表情から読み取るようにし、本人に合わせた支援を心掛けています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族様の情報を基に、生活歴や暮らし方を把握し、一人ひとりの思いやその方らしさを大切にしよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の暮らし方や表情や言動、身体的変化を日々観察し、現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様・ご家族様の意見や主治医や計画作成者の意見を基に、3か月に1回カンファレンスをし計画をたてています。ご入居者様に変化があればその都度見直しています。	利用者・家族の意向は、日常の様子や家族の訪問時に把握しています。計画作成者は主治医や訪問看護師からの情報も反映しつつ介護計画を作成しています。3ヵ月毎にカンファレンスを行い計画を見直しています。また変化があれば随時見直しをしています。	計画には家族の意見を取り入れています。家族アンケートでは「説明はあったが話し合っていない」との意見がかなりあるので、今一段丁寧な話し合いが必要と思われます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や身体的変化等は、ケース記録・業務日誌等に記入し、申し送りでの報告にて、職員間の情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問医師や訪問看護師が、ご入居者様の状況に応じて対応し、またかかりつけ医との連携も可能で、指示を仰ぐことができます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町会の行事に参加できるよう支援しています。地域のボランティア(歌や演芸、手品等)の方たちのご支援もあります。地域の飲食店への利用にもご協力頂いております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療において適切な医療が受けられるよう支援しています。さらに、毎月医師より「診療情報提供書」に病状経過・介護方法・日常生活の留意点等を記載し、ご家族様にご報告しています。訪問歯科受診も行っております。	内科医と歯科医が各々月2回訪問診療を行っています。その他の科への受診は原則家族付き添いで、必要に応じ職員が付き添っています。また週1回訪ずれる看護師から身体的相談や指示を仰ぎ、適切な支援ができるよう取り組んでいます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師(非常勤)がいるため、身体的変化や適切な対応等、相談・指示を仰ぐことができます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と連絡を密にとり、ご入居者様の状態をご家族様と共有して相談しております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	長期の入院や共同生活が困難になった場合を除き、出来るだけ施設で過ごせるよう努めていきます。終末期の在り方については、ご家族様からのご意向を聞き、看取りも行っております。職員は、看取りケアを、理解し、研修を行っています。	契約時に終末期のあり方を家族に説明し「終末期の意向確認書」に同意後署名捺印を得ています。主治医との24時間オンコール体制を整え必要に応じ看取りを行う方針で、まだ実施例は有りませんが、職員は緊急時のマニュアルを参考に、訪問看護師から看取り研修を受けています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備えて、緊急対応マニュアルに基づき、職員が対応できるよう研修を行っております。今後も引き続き定期的に研修していきます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・災害時の自主避難訓練は、日中・夜間を想定し、年2回以上実施しております。地域の方々や消防署への協力は、運営推進会議や防災訓練等で依頼しています。非常用備蓄も準備しています。	スプリンクラー等法令上要求される防火設備等は当然ながら備わっています。自主避難訓練の他、町内会の防災訓練にも参加しています。自主避難訓練には町会長が参加協力すると申し出てきています。必要な備蓄品の他、停電に備え充電器を保有しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室やトイレに入る際、声掛け等に配慮しております。一人ひとりのプランに沿ったケアを行っております。今後も、声掛け等、マナーに関する研修も定期的に行うようにします。	声かけは原則（～さん）で統一して利用者が混乱しないよう心掛け、特に入室やトイレ誘導の際の声かけに注意を払っています。職員へはマナー冊子を配布し、必要に応じ申し送り時に話し合っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中から、ご入居者様の思いや希望を把握し、散歩やレクリエーション、体操など強制することなく、その方の意思を確認できる対応を行うよう心掛けています。全員に声掛けを行っております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせた対応をおこなっております。その日のペースに合わせて、調整しながら過ごし方を工夫しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みの衣類を着ておられます。また、衣類による体温調節にも気を配るようにしています。お化粧品や、シェイバーの管理を行い、いつまでも身だしなみやおしゃれに興味を持って頂けるよう支援しています。訪問理容も定期的に行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には、下ごしらえや準備や片づけを、職員と一緒に、声掛けをしながら行っています。	献立は月1回食材は週1回、本部から届けられています。食事前にはラジオ体操や嚥下体操で健康維持・誤嚥防止に努め、利用者も食事の準備や片付けを手伝っています。外食や出前を取ったり、誕生月にはケーキの手作りを楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算された献立により、食事を提供しております。身体状況に応じた対応（おかゆ、刻み食、ミキサー食、とろみ食等）も行っています。食事量や水分量に応じた対応に気を配るようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行います。また、口腔内の炎症や義歯の調整等、定期的に訪問歯科受診の対応もしております。歯科医の指示を仰ぎ口腔ケアをします。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に個人の排泄状況を記録し、声掛けにより、トイレでの排泄誘導を行い、自立にむけた支援を行っている。夜間も、声掛けをし、トイレでの排泄誘導を心がけています。トイレ介助時、ウォシュレットや清拭等、清潔保持に努めています。	個々の排泄表を参考に、声かけによりトイレ誘導をしています。自立者も多く、夜間は時間で誘導し、動きを察知する為センサーをつけたり、スリッパに鈴をつける場合もあります。オムツからリハパンツに変更した例も有り、自立に向けた支援に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表に毎日個人の排便確認をしています。便秘予防のため、水分摂取や運動を行うようにしていますが、便秘が続く場合は、医師の指示により、内服を行うようにしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴で、1日4～5名の方が入浴されます。ご希望により毎日の入浴も可能です。その日の身体状況や個人の状況に応じ対応しています。	入浴は週3回、入浴表に沿って午前中4～5人が入浴しています。入浴拒否や体調不良の際には日を変えたり、清拭や足浴等個々の状況に合わせて対応しています。また菖蒲湯や柚子湯などで季節を楽しめる支援を心掛けています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況や体調に応じ、起床や就寝時間を見極めた対応をしています。室温や、寝具の調整にも気を配るよう努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬の用法・効果・注意書きがすぐにわかるようにしています。服薬の際には、名前の確認等安全に心掛けています。完全に内服するまで職員が確認しています。薬は、鍵がかかる戸棚に安全に保管しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご入居者様の長年の習慣や趣味を活かし、習字や歌、編み物、家事等、職員と一緒にしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	苑の近所には、住宅街の整備されました歩道があり、ベンチのある公園が多数あり、時折、ご近所の方やお子様とのふれあいがあります。外食会や、買い物等の要望を取り入れながら支援しています。	近くの住宅街に公園が幾つかあるので、午後30分程数名に分かれて散歩に出かけ、子ども達との触れ合いを楽しんでいます。1月は初詣月とし、ほぼ全員が車で出かけています。家族と自宅での外泊に出かける利用者もいて、外出を積極的に支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご入居者様のお小遣いとしてご家族様より、お預かりし、出納帳にて管理しております。外出時や買い物のおきに、お渡します。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでも使えるよう配慮しています。手紙やはがきなど郵便物も、はがきや切手を購入したり、投函に職員と一緒にいくようにしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは、オープンキッチンで日々調理の様子をご入居者様は興味を示し、食事を楽しみにしております。テラスから眺める庭園や近隣風景も楽しんでおられます。壁には季節の共同作品等を貼り、工夫しています。	リビング兼食堂、トイレ、玄関・廊下共に余裕のある作りで全体的に明るく、建物も新しいので清潔感があります。リビングは日当たりが良く窓からは遠くまで見渡せ季節を感じ、オープンキッチンからは生活の匂いが感じられます。トイレは換気扇を常に稼働させ臭いの籠らぬよう配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、ソファーや和室があり、気の合う仲間とそれぞれお好きな場所でテレビ観賞や音楽鑑賞、談話をされて過ごしておられます。個人の居室にて、ゆっくり読書やテレビを楽しまれている方もおられます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅からお持ちいただきました家具や馴染みの小物や写真、趣味で作られた作品等、ご入居者様が居心地よく過ごせるよう配慮しています。ご仏壇をお持ち頂くことも可能です。	居室はそれほど広くはありませんが、大きなクローゼットが備え付けの為、整理が行き届いています。職員が清掃する他自分で掃除をする入居者もあり、テレビや箆笥等馴染みの家具が持ち込まれ小奇麗な感じがします。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や出入り口には物を置かないよう安全な環境に心がけています。トイレや洗面所等、自立した生活が送れるようわかりやすい表示や、手が届くところに洗面用具を置くように配慮しています。		